

大学院教育 日米の違い

日米比較を通してみる
切磋琢磨型アカデミズムの重要性

Hiroaki Suga Ph.D. 菅 裕明

Professor

Chemical Biotechnology Laboratory

Research Center for Advanced Science and Technology (RCAST)

The University of Tokyo

東京大学・先端科学技術研究センター

Contact: hsuga@rcast.u-tokyo.ac.jp

切磋琢磨するアメリカの科学者たち

平成16年 出版
共立出版（1800円）

平成18年~19年
日経バイオテクJBTジャーナル連載

「日米研究者キャリアパス」（アクセスフリー）

<http://biotech.nikkeibp.co.jp/btjtn/>



論点：

- **米国大学院の教育システム**
- **学生の経済的サポート**
- **日本でどう取り組むか**

大学院でのメンタリング

メンタリング = 学生を育てる

- ・ 指導者・教員として

学生の能力を伸ばす（能力を潰さない）
将来活躍できる場がどこか、見極めさせる

- ・ 制度として

学生の能力を伸ばす（能力を潰さない）
将来活躍できる場がどこか、見極めさせる

学生は

自分の能力を最大限に伸ばす
将来活躍できる場がどこか、見極める

「大学院は自分の将来への投資である」

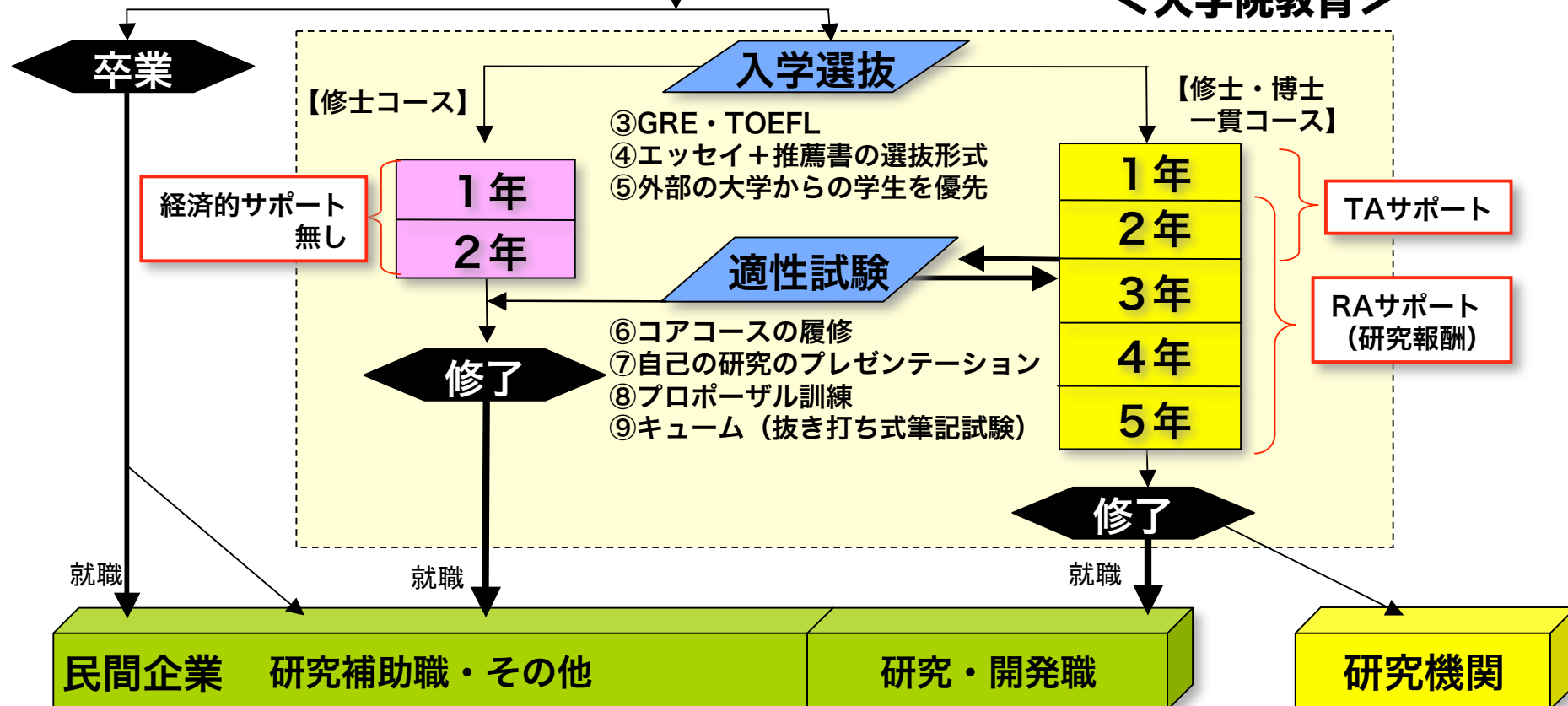
米国にみる大学・大学院での教育システム

<学部教育>



- ①ダブルMajorの取得
進路変更の容易化
進学する上で、学部成績を重視
- ②意欲ある学生を伸ばすシステム
(若い時期から研究室訪問、論文作成)

<大学院教育>



Teaching Assistantship (TAサポート)

- **TAship**は、博士課程全大学院生が入学１年目に受ける経済的サポート（外国人にも適応）
- 2年以降も継続して受ける学生もいる
 - 理系では、指導教員が**RAship**を払えない場合
 - 文系では、一般的に**TAship**が唯一の経済的な糧
- 授業料は免除（あるいは所属学科が負担）
- ☞ 学生は**TA**の経験を通し、何を得るか？
 - ✓ 学部生に教える事で、基礎知識の復習をする
 - ✓ 教える技術を学ぶ